

町史のひとこま (第二回)

●○・壯烈!! 高鳥居城 ○○

高鳥居城を最初に築造したのは河津筑後守貞重で、永仁元年（一二九三）のことであるといふ。河津は、尾仲庄（篠栗町尾仲）の地頭で、曾我兄弟と同じく伊豆の伊東氏の流れをくむ人であつた。

それからおよそ七百年。高鳥居城は今ではあとかたもなく、竹城山の頂にわずかに城郭のあるところを、たゞおぼしき平地を残すだけだ

が、たびたびの攻防や落城の悲劇を織り込んで、高鳥居城の歴史は延々三百年にも及んだのであつた。

最後の攻防戦となつたのが、天正十四年（一五八六）八月二十五日、星野兄弟と立花統虎の合戦だ。島津氏の城代としてた

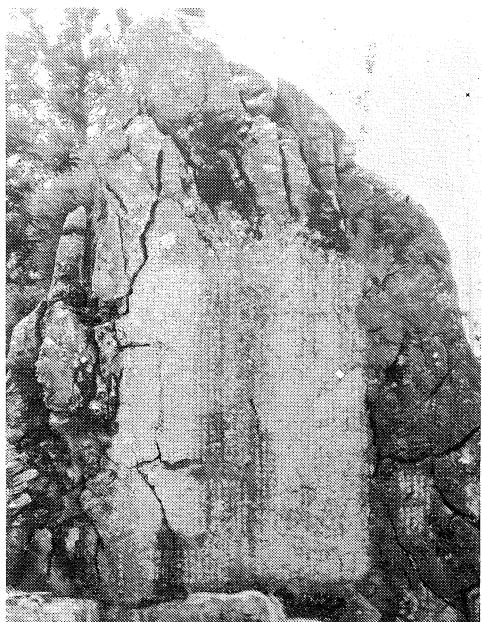
一方、からめ手（裏門）には、統虎応援にかけつけた小早川隆景の兵三百人が須恵村からよじ登る。

秀吉は、若き統虎の手柄に感心し『星野兄弟を始め、数百人討ち取つたのは御苦勞であった』

（文は元教員勝野藤太、書は郷土史家小山田遊谷）が建てられた。最近、すぐ横にならん供養塔も建つた。また、皿山公園のすぐ上にある清滝にも『高鳥居武士之靈塔』がある。これは昭和十七年に鹿児島県の人があつたものである。



清滝の靈塔



竹城々址碑

須恵町のお地蔵さんなどで、落武者の伝説を伝えるものは多い。戦国武士や家族の悲惨な最期を訴えると共に、その靈をとむらわずにいた里人の心のやさしさを伝えるものであらう。

（町誌編集委員会事務局・石瀧）

立花統虎が戦いを挑んだ。

二十五日早朝、立花城（新宮町）を打って出た立花の軍勢は、近をかすめた。宇美の住人宇美

も戦死者続出し、銃弾は統虎の身も秀吉の島津攻めに功をあげ、

築後柳川を与えられた。統虎は、麓に到着、ときの声をあげて攻入、城は炎上した。星野吉実は

立花勢は、それでも城内に乱め寄せた。

立花次郎兵衛と槍を合わせてい

立花宗茂である。

立花統虎が戦いを挑んだ。

つていた。必死の抵抗に寄せ手

『まことに九州第一の武士である』と激賞した。統虎はその後

も戦死者続出し、銃弾は統虎の身も秀吉の島津攻めに功をあげ、

築後柳川を与えられた。統虎は、

城からちょうど四百年。言いかえれば三百年の戦乱ののち、四

百年の平和が続いたということ

城からちょうど四百年。言いかえれば三百年の戦乱ののち、四

百年の平和が続いたということ

城からちょうど四百年。言いかえれば三百年の戦乱ののち、四

百年の平和が続いたこと

の際に、次郎兵衛に功を譲つた。

統虎はのちにこのことを知つて、だ。竹城山腹には昭和五年、上

須恵区民の手で『竹城々址碑』

（文は元教員勝野藤太、書は郷

土史家小山田遊谷）が建てられ

た。最近、すぐ横にならん供

養塔も建つた。また、皿山公園

のすぐ上にある清滝にも『高鳥

居武士之靈塔』がある。これ

は昭和十七年に鹿児島県の人

が建てたものである。

須恵町のお地蔵さんなどで、落武者の伝説を伝えるものは多

い。戦国武士や家族の悲惨な最

期を訴えると共に、その靈をと

むらわずにいた里人の心のやさしさを伝えるものであらう。